

令和 5 年度  
学校自己評価

学校法人 群馬英数学館  
育英メディカル専門学校

## 目次

1. 建学の理念と教育目標	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 2
2. 評価項目の達成および実施状況		
(1) 教育理念・目標	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 3
(2) 学校運営	・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 5
(3) 教育活動	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 7
(4) 学修成果	・・・・・・・・・・・・・・・・・・	P 9
(5) 学生支援	・・・・・・・・・・・・・・	P10
(6) 教育環境	・・・・・・・・・・・・・・	P12
(7) 学生の受入れ募集	・・・・・・・・・・・・・・	P13
(8) 財務	・・・・・・・・・・・・・・	P14
(9) 法令等の遵守	・・・・・・・・・・・・・・	P15
(10) 社会貢献・地域貢献	・・・・・・・・・・・・・	P16

## 1. 建学の理念と教育目標

### 【建学の理念】

- 常に国際的な視野に立ち、博愛の精神の高揚によって、世界平和に貢献することを目指す。
  - 人類共通の願望は「健全なる身体と心」であることを鑑み、東洋医学による治癒技術の教育と練磨の実現にある。
- まなびていとはず おしえてうます ふとうふくつ
- 信条として「学而不厭、教而不倦」を掲げ 「不撓不屈」の精神を養う。

### 【教育目標】

『はり師』 『きゅう師』 『柔道整復師』の国家資格取得を第一目標とし、医療分野における専門知識及び確かな技術を修得させ、社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成をすることを目的とする。

## 2. 評価項目の達成および実施状況

### (1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
・学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	④ 3 2 1
・学校における職業教育の特色が定められているか	④ 3 2 1
・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
・学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
・各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
建学の理念、教育目標を記載した学生便覧を年度初めのオリエンテーションで配付、説明しているが、保護者にまで周知がされているかは確認が出来ていない。	新入生の保護者向けには説明会を実施したが、在校生の保護者に対して建学の理念・教育目標が記載された配付物の配付や説明会等の周知を検討する。
理想（例、全員進級全員卒業全員合格）と現実（例、中途退学者や国家試験不合格者の発生）の乖離を遮減させる。	教職員間並びに学生とのコミュニケーションを更に増やしていく。
何となく入学する学生と、本校の掲げる理念や目指すべき人材像のギャップがある。	そういった学生にも業界や東洋医学の面白さを伝えることで、間を埋めていく。
学校の目指す育成人材像などを保護者に周知できると良いと思う。	
どのような人材を育成したいのかを明確にする。	
保護者への専門分野の特性の周知	
周知は保護者までされているかというとそこまではされていない。	保護者に向けたメッセージを積極的にする。
教育理念等について、学生や保護者等の認識が十分とはいえない面があると感じる。	HPやパンフレットへの掲載、オリエンテーションでの通達等で確認を行う。
理念や目標に対して、社会情勢や世の中の固定概念による障害があり、やりにくい部分がある	
本校の教育理念は、『はり師』『きゅう師』『柔道整復師』の国家資格取得を第一目標とし、医療分野における専門知識および確かな技術を修得させ、社会に貢献できる人間性豊かな人材の育成をすることを目	

的としており、教育理念として適切と言える。また、学生便覧やホームページにも記載し、周知を徹底しているが、今後の課題としては、保護者への更なる周知の徹底であると思われる。	
理念・目的・目標は明確に定められており、学生にも学生便覧等で周知できている。	

## (2) 学校運営

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化され、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する規程等は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④ 3 2 1
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④ 3 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られている	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
一部システム化を図り効率的になっている部分はあるが、機器の使い方に慣れない学生や不具合等の対応も必要になっている。	
進行する少子化社会において如何に有望な人材を確保し、社会に輩出するか。	学生の要望を可能な限り把握し受け入れつつ学校の理念を理解してもらい卒業後に高評価を得られるような医療従事者に成長できるよう指導管理を行う。
少子化による募集活動の減少が予想される。	魅力ある学校、学科のPRを行っていく。
学校運営については適切に行われている。	
医科系教員の確保	
ペーパーレス化の推進	
情報システムにおける業務の効率化についてはまだ改善の余地がある。	職員の負担を減らし、空いた時間を別の業務に当てられるようにする。
情報システム化について、学事システムや給与システム等最低限のシステムの導入はされているが、更なる業務の効率化を図ること。	新たなシステムやより良いシステムを利用できる可能性もある。（学生管理、就職関係、会計処理等）
国家試験対策や学生の成績向上のための補習などにおけるマンパワーが足りていない。	卒業生の専任講師が増えることを期待している。

現状では学校運営は適切に行われている。 情報システムの更なる活用により、学校運営の効率化が期待できる。	
費用の事もあるが、業務の効率化を向上できるのであれば、情報システムの改善を検討しても良いのではないか。	

### (3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされている	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4 3 ② 1
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われている	4 ③ 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
今の時代の青年達のマインドを理解して、教職員が寄り添う形を取る。	
教育活動については、その都度、時代に合った対応をしている。	
教員の質を向上するための課外研修等の充実。	
実践的な職業教育は十分にできているとは言えない。	それを補うプログラムを現在構築中。 (スキルアップコースなど)
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れるよう努める。	

社会が求める柔道整復師像の変化に対応できる学生の育成。	社会や職場が求める柔道整復師のニーズを把握する。
授業内容の充実化、わかりやすさの向上。	
学生情報の共有や、学習能力に合わせた指導など、本校の教育理念に基づき、教育活動において的確に指導している。	
業界のニーズに合った人材育成をする	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れる。

#### (4) 学修成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
就職率の向上が図られているか	④ 3 2 1
資格取得率の向上が図られているか	④ 3 2 1
退学率の低減が図られているか	4 3 ② 1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4 ③ 2 1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
就職サポート、キャリア形成、国家試験対策等についてかなりきめ細やかな対応が出来ている。	卒業生との関係も概ね良好であるが、全員の近況を把握するまでには至らないため、今後より密な連携を取っていく。
学会発表や論文投稿などは個人の活動に委ねられている。	仕事の割り振りなどで学習成果をあげられるような教育を目指す。
退学者低減の取り組みは進めているが、まだまだ改善が必要。	
退学率の低減について、様々な案を出し、改善策を講じているものの、成果が見られない。	引き続き改善に向けての対策を検討していく。
退学率を下げるために、現在、面談の実施と授業の在り方について教職員で意見交換を行い、一部の改善案はすでに実行している。	
近年退学率が増加傾向にあるため、対策が必要である。	学生の悩みを把握し勉強のやり方やモチベーションを維持する方法を一緒に考える。
卒業生の活躍を知る機会を作り、オープンキャンパスなどで起用する。	
学修成果においては、国家資格取得に向け、学生情報の共有や、学習能力に合わせた指導など、本校の教育理念に基づき、的確に為されている。	
やむを得ない理由での退学者もいるが、退学の意思が固まってしまってから把握することが多いため、手の施しようがなくなってしまう。	退学者を減らすために担任制を導入し、学生が相談しやすい環境をつくり早めのフォローをする。

## (5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	4 ③ 2 1
卒業生への支援体制はあるか	4 ③ 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
キャリアサポート等が充実しており、学生が相談しやすい環境が整っている。	ただ、比較的細かいところまで指導する場面もあるため、保護者との意思の疎通を更に図っていく。
教職員を頼ってくる学生には対応可能だが、なかなか相談する勇気の無い学生に対して、こちらから適宜声掛けを行う。	
できる限りの学生支援を行ってきてはいるが、新たにできることを探し、さらに支援ができるか検討する。	
卒業生との連携をより深め、社会人のニーズを踏まえた教育環境を提供する。	
相談があれば手厚く丁寧に対応はしているが、学生一人ひとりに対する生活環境まで踏み込んだ支援はできていない。	以前は実施していただが、学生全員に対しての面談の機会を設けるか検討する。
授業時間外の学生対応に対するマンパワーの不足。	担当教員に確認しなくても対応できる資料の作成やオンデマンドなどの活用を検討する。

学生の様々な適性や能力、経験をキャリアコンサルタントが分析し、個々に適した目標を設定。マインドマップ講座を開設するなど、多面的な学習サポートも実施している。	
就職先の選択肢を増やす。	新規開拓を行い、より充実した就職サポートを行う。
修学支援制度の実施	

## (6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4 ③ 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
学生が勉学に集中できるような環境が整っている。学校外の実習等も充実している。避難訓練も毎年適切に行われている。	いざ実際に災害が起きた際に同じような行動が取れるとは限らないため、普段から非常時の対応について意識させるような体制を整えたい。
インターンシップについては、業界の特性上受け入れ先が少ない。	発掘、連携する努力をしたい。
学生からの要望を取り入れ、環境の整備等も行っている。	今後も学生の意見を聞きながら環境整備に努めていく。
建物の老朽化による問題は否めない。	現状でも業者を入れその都度の問題に対処している。
海外研修についてはいまだ不充分である。	学生のニーズを確認し、必要があるなら実施していく。
学内の施設、設備は適切に整備されている。学内の実習施設は整備されており、資格取得の特性上現在インターンシップ、海外研修等は必要ではない。	
学生からの意見等を取り入れ、教育環境の向上に取り組んでいる。	

## (7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
学生募集活動は、適正に行われているか	④ 3 2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④ 3 2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
オープンキャンパスを試行錯誤し、より良いものにしようという取り組みを実施している。	
学生募集活動においては誇大広告もなく、他校を貶めるような言動も一切ない。学納金も適切である。	少子化においてどこも生き残りをかけて必死であるが、全てにおいて正攻法で結果に繋げたいと考える。
学納金は安ければ良いというものではなく、これから時代は少子化なので、高価でも良質な教育が求められる。	
学生募集は適正に行われており、今後も募集人数を増やすことが課題である。	募集会議を定期的に行い実行と確認を繰り返す。
ミスマッチによる早期退学を避けるために、入学希望者の本質や資格取得に対する意欲などを見抜くような面接での質問をしているが、実際には入学してみて学修意欲を喪失する学生も少なくない。	思った以上に勉強が難しくて、断念する学生がいるため、オープンキャンパスなどでは、楽しさだけでなく厳しさも同時に伝えていけるよう工夫していく。
学生募集は適正に行われている。国家試験合格実績、就職状況等ホームページや学校案内、オープンキャンパス等で正確に伝えている。学納金は妥当である。今後の課題としては、更なる少子化に向け、ブランディングの強化が求められる。	
募集会議を行い、より充実した募集活動が行えるように話し合いができている	
社会人への募集のアプローチ方法	

## (8) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④ 3 2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④ 3 2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
全て公明正大に行われている。今後一層進行する少子化に如何に対応するかが課題である。	学生募集の強化が必須である。
より積立金が増えるに越したことは無いと考えるが、学生のための投資も必要で、そのバランスを取ること。	
将来的に少子高齢化で学生数減少に対しての対応（例えば、理学療法学科の新設など）	
現在の財務状況は良好ではあるが、人口減少傾向にある中、今後の入学者減少の煽りを受けての財務状況を考慮しながら、先手を打つ必要があると考える。人件費の上昇および物価高騰の流れの中で、減免額の見直し及び授業料の値上げを余儀なくされている。また、校舎の老朽化と耐震強度の不適切状況を踏まえ、今後は校舎立て直しましたは移転も検討している。そのために第2号基本金の組み入れを毎年実施している。	
現在情報公開は準備中である。	令和6年7月にHPで公開予定。
物価高騰により、公共料金や様々な物品の価格が値上がりし、支出が増えていくことが予想される。	電気使用量の節約を学内に周知し、資源ごみのリサイクルに努める。

(9) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
自己評価結果を公開しているか	4 (3) 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
個人情報保護等については漏洩等の無いよう意識して取り組んでいる。	
公開についてはまだ不充分である。	令和6年7月にHPで公開予定。
継続的に問題点を洗い出し、改善策を考える場を設ける。	改善策を実行し精査する場も設ける。
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営はなされていると思う。	
期末、年度末に学校・授業評価アンケートを実施し、改善に努めている。	

## (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	④ 3 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4 ③ 2 1

実施状況・課題	今後の改善方策
積極的に行えていると思う。	
地域のスポーツ大会等に救護等で赴き、地域住民の健康増進にお役立ちが出来ている。今後そうした機会が更に増えていくことが望ましい。	
より地域に根差した学校になるために、地域との連携を深めていく。	
救護なども含め、地域・社会への貢献活動は積極的に行っている。	
以前は地域の公民館などでお年寄り向けに運動指導などを行っていたが、コロナを機に公開講座などは実施していない。地域の運動大会（卓球大会、運動会など）で救護のブースを出して、けが人の応急処置などのケアをしているので、引き続き地域貢献のためにもトレーナー活動を実施していく。	
関連業界団体の研修会や総会等に会場を提供したり、地域の催事にも積極的に参加するなど、地域・社会貢献活動に注力している。今後も更に活動の場を増やしていく。	
地域のスポーツイベント等に救護で積極的に参加し、地域貢献できている。	